

# 第2回MPLS-IX相互接続実験概要

- **エッジルータ試験**
  - Loopback/LDP      Loopback/RSVP (1日目)
  - Interface/LDP      Interface/RSVP (2日目)
- **パフォーマンス試験 (1日目 – 5日目)**
  - 他の試験とパラで行う
- **コアルータ試験**
  - Loopback/LDP      Loopback/RSVP (3日目、4日目午前)
  - Interface/LDP      Interface/RSVP (4日目午後、5日目)
- **冗長性試験**
  - Router Testerで1msごとのパケットを生成し、パケットロス測定

# エッジルータ試験

- **試験順序**
  - Loopback,/LDP Loopback/RSVP (1日目 予定)
  - Interface/LDP Interface/RSVP (2日目 予定)
- **A群のエッジルータは、全てのB群のエッジルータに対して常時eBGPピアを設定してください。試験するときだけeBGPを設定するのではなく、いつも設定を残しておいてください。**
- **エッジ試験のきりのよいところで、B群のエッジルータを切り離し、パフォーマンス試験を行ってください。Router Tester(1台)で試験します。3台以上のルータを持ち込む方は、エッジ試験とパラでパフォーマンス試験してください。**

# パフォーマンス試験

- 実施期間（1日目～5日目）
- Router Testerを用いて以下のパフォーマンス試験を行います。
  - IP パケット転送
  - MPLS パケット転送
- 必要な設定をした後は、こちらでテストを実施します。必要な設定は別途お知らせします。

# コアルータ試験

- **試験順序**
  - Loopback/LDP      Loopback/RSVP
  - Interface/LDP      Interface/RSVP
- **全てのエッジルータに対してeBGPを設定。**
- **エッジルータからLSPが設定でき、そのLSPでパケット転送ができて  
いることをパケットダンプで確認。確認項目は、エッジルータ試験と同じ。**
- **コアルータでは、以下の項目を試験する**
  - OSPFで必要な経路情報を広告できるか？
  - LSP毎のトラヒックがSNMPで取れるか？UP/DOWNトラップがあるか？
  - LSP毎のフィルタを書けるか？  
エッジルータからシグナリンクを許可するFECを記述することができるか。

# 冗長性試験

- エッジルータにRouter Testerを接続し、1ms毎にパケットを送信
- パケットが通っているコアルータ間のファイバを抜き、パケットロスを測る